

富山大学地域連携推進機構生涯学習部門における 2016 年度の実施事業について

森 口 毅 彦

(富山大学地域連携推進機構生涯学習部門長)

要旨：富山大学地域連携推進機構生涯学習部門において 2016 年度に実施した事業の概要を報告する。主要な事業である公開講座の開設数は 71 講座、オープン・クラスの公開科目数は 785 科目であった。新しい取り組みとして、「キャリアデザイン講座」を実施した。また、生涯学習部門開設 20 周年を記念して式典と記念講演会を開催した。



はじめに

富山大学地域連携推進機構生涯学習部門は、昨年度、その前身となる生涯学習教育研究センターの開設（1996 年）から 20 年という節目の年を迎えました。これを記念し、生涯学習部門開設 20 周年記念式典と記念講演会を、映画監督の本木克英氏をお招きして開催させていただきました。これまで生涯学習部門の活動を支援してくださいました皆様方にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。

さて、これまでの生涯学習部門のあゆみを振り返ってみると、大きく 4 つの段階を経て発展してきていると捉えることができます。

まず、生涯学習教育研究センター開設前ではありますが、富山大学において公開講座を開始した時期に該当する「萌芽期」（1983 ～ 1995 年頃）。センターが開設され、公開講座の開講数が 40 講座を超えるまでに増加し、またオープン・クラスやサテライト公開講座等の、今日の中心となる事業が開始されるなど大きく成長を遂げた「誕生・成長期」（1996 ～ 2003 年頃）。次いで、国立大学法人化、富山県内三大学統合、そして地域連携推進機構生涯学習部門への改組を経て、公開講座の開講数が 80 を超えるほど

に飛躍的に増加した「発展期」（2004 ～ 2010 年頃）。そして、新たな学びの形を提供する試みとして、地域の一般市民及び生涯学習専門職員を対象としたワークショップ形式の事業を展開し始めた「展開期」（2011 年頃～）の 4 つの段階です。

生涯学習部門では、開設当初より、「大学の知的資源を開放することを通じて、地域社会における生涯学習の振興と充実に寄与する」という目的・使命を果たすべく、常に時代が求めるニーズと向き合いながら活動してまいりました。

これから、次の 10 年、20 年に向けて、富山大学ならではの独自性の高い学びの場を提供していく新たなステージへと歩み進めていこうと考えております。

ここに刊行いたします生涯学習部門年報第 19 巻は、昨年度の生涯学習部門の取り組みを総括し、今後の事業展開を一層充実したものとするための基礎資料・指針を提供するものです。

以下、本年報の内容は、当部門が実施してきた 2016 年度事業の概要報告、公開講座とオープン・クラスの実施状況報告、本部門専任教員による研究論文、委員会等の開催状況報告、そして事業報告資料集となっております。

本書を通して、当部門の事業の概要をご理解

いただき、今後のより一層充実した生涯学習活動へ向けて、みなさま方の忌憚のないご意見・ご要望をお寄せいただけましたら幸いです。

1. 生涯学習事業

① 公開講座

本学は数多くの公開講座を実施しています。この事業は、本部門に設置された全学的な公開講座専門委員会で企画が審議・承認され、本学教員の大学開放に対する深い理解・協力のもとで実現されています。

ジャンルごとの開講数でみると、教養講座で19コース、語学講座で35コース、体験講座で17コース、計71コースが企画されました。それぞれの受講者数をみると、教養講座で202名、語学講座で323名、体験講座で182名、合計707名になり、前年度よりも29名の増加となりました。このことについて当部門では、新聞へのチラシの折込み等を実施したことの効果が現れたと分析しています。

本学の公開講座は、一般市民の学習ニーズとうまくかみ合った企画であることから、多くの講座が例年恒例の形で（微調整・ヴァージョンアップも伴いながら）実施されます。語学では、初級から中級そして上級へとステップアップする講座が開設されています。

極めて多彩なジャンル・レベル設定を備えた講座の数々について、ここで詳細に述べつくことはできません。しかし、多くの一般市民が受講していることや、本年報収録の受講生アンケートの結果をみると、大学の知的資源を地域社会に還元するという目的はおおむね達成できていると評価できます。



② オープン・クラス

オープン・クラスは、正規学生に対する授業を一般市民に開放する取り組みです。

2016年度のオープン・クラス利用は、受講希望者が延べ344人(前期176人、後期168人)、試聴等を経て実際に受講した方は延べ278人(前期156人、後期122人)にのぼりました。

開放科目数は前年度775科目から2016年度785科目となりましたが、延べ受講者数は前年度より26名減少しました。

③ 講師等紹介

本部門では学外からの講演会・研修会等のための講師派遣依頼に応じて、本学教員の紹介をおこなっています。講師の選定とともに、企画段階でも学習（研修）プログラム作成に協力しており、2016年度は、本部門において、約45件の講師等の紹介を行いました。


なお、講師等紹介には本部門を経由せず、各学部に応じ入れて実施されているケースもあることをお断りしておきます。

④ サテライト講座

サテライト講座は、本学教員が、研究成果を一般市民に向けて開放する講座で、受講しやすいように富山駅前 CiC ビルにおいて、受講料無料、事前申込不要で開講しています。

2016 年度も 8 つの学部から 1 名ずつの教員が講師となって 8 講座が開催され、総計 647 名の受講者が集まり、大変盛況でした。





平成28年度

富山大学サテライト講座

“知りたい”をここから～富山大学の“知”と出会う～

受講料無料

多彩な専門分野を有する富山大学の教員陣が、
 日ごろの研究成果を皆様にわかりやすくお話しします。
 各講座とも申し込み・受講料は不要ですので、
 お気軽にご来場ください。

第1回 5/28(土) 「どんどん増える食物アレルギー ～原因と対応について～」 大学院医学薬学研究所(医学) 教授 足立 雄一	第5回 9/3(土) 「生活習慣病と不眠 ～糖尿病や高血圧症での快眠対策～」 大学院医学薬学研究所(薬学) 教授 笹岡 利安
第2回 6/18(土) 「大学教育って、こう変わるうとしてるんです ～アクティブラーニングの実践を通して～」 大学院理工学研究所(工学) 教授 堀田 裕弘	第6回 10/1(土) 「多様な性のあり方を考える： 自治体・企業・学校と地域社会の新しい役割」 人文学部 准教授 林 夏生
第3回 7/9(土) 「黒部峡谷の秘めたる自然誌」 大学院理工学研究所(理学) 准教授 柏木 健司	第7回 10/29(土) 「政策的思考と政治的決定 ～二つの狭間で民主主義を考える～」 経済学部 教授 青木 一益
第4回 8/6(土) 「草原の民族音楽」 人間発達科学部 准教授 石井 哲夫	第8回 11/26(土) 「古代中国殷周青銅器の鑄造技術の解説 ～可動式釣手を持つ蓋付きの 酒器「直(ゆう)」について～」 芸術文化学部 教授 三船 通尚

平成28年度北陸4大学連携まちなかセミナー
「北陸の古代を探索する」
 日時: 10月16日(日) 14:00～17:00 コーディネーター: 富山大学人文学部 鈴木 聖二
 会場: 富山駅前CiCビル5F 講師: 富山大学地域教育科学部 内井 康雄
 いしはらKAN事務所・金沢大学人文学部 金沢 史子
 対象: 一般市民の方、どなたでも参加可能

お問合せ先
富山大学地域連携推進機構生涯学習部門
 TEL 076-445-6956 FAX 076-445-6033
 ホームページ <http://www.life.u-toyama.ac.jp/>
 Facebook <https://www.facebook.com/life.univ.toyama>
 E-mail life@life.u-toyama.ac.jp

・生涯学習部門開設 20 周年記念式典・講演会

生涯学習部門は、前身である生涯学習教育研究センター開設から数えて 2016 年度で 20 年の節目を迎えるに当たり、2017 年 3 月 4 日（土）に、「開設 20 周年記念式典・記念講演会」を開催しました。県内生涯学習機関の関係者や教職員、地域住民など、あわせて約 160 人が参加しました。

前半の記念式典では、富山県民生涯学習カレッジの山崎弘一学長から来賓祝辞をいただいた後、生涯学習部門の部門長より、地域の生涯学習の拠点としての部門のあゆみ及び現状について報告しました。

後半の記念講演会では、本学教育学部附属中学校（当時）を卒業し、日本を代表する映画監督の 1 人として「釣りバカ日誌 ハマちゃん危機一髪！」や「超高速！参勤交代」などの多様なテーマで作品を生み出し続ける本木克英氏から、「富山と映画の意外な関係」と題した講演がありました。

・高大連携

小杉高等学校との高大連携事業に関する覚書に基づき、教養教育科目のうちオープン・クラスとして開講している授業に同校から生徒を毎年受け入れています。

2016 年度は、9 名の生徒が「物理の世界」などの授業を受講し、2016 年 9 月 5 日（月）の事後研修・発表会後に、修了した生徒には本学

⑤ その他の講座・イベント

・まちなかセミナー

2016 年 10 月 16 日（日）、北陸地区 4 国立大学連携のまちなかセミナーを開催しました。富山・石川・福井の各会場に相互に講師を派遣し合う取り組みです。

2016 年度も、各会場でコーディネーターを採用し好評でした。富山会場は「北陸の古代を探索する」と題して、金沢・福井・富山大学から講師を迎え、108 名の受講者がありました。また、富山大学からも福井・石川各地に講師として本学教員を派遣しました。

から修了証書が授与されるとともに、同校から卒業単位1単位が認定されました。

・キャリアデザイン講座

若者の地元定着率向上を目指すCOC+事業の一環として、県内高校生に地元の大学への進学及び地元の企業への就職を意識し、富山で働き暮らしていくことのイメージを持ってもらうことを目的に「キャリアデザイン講座」を実施しました。

2016年度は、南砺福野高等学校と高岡南高等学校の生徒を対象に、生涯学習部門長及び地域連携戦略室コーディネーターが、富山で働き暮らすことを考えるきっかけとなるような情報提供やCOC+事業の紹介等を行いました。

・富山大学市民講座2016

本講座は、毎年一般市民を対象に富山大学の研究者が1つのテーマについて、体系的・学際的に紹介している無料講座です。

2016年度は、7名の教員が、「認知症最前線」と題して、3回シリーズで開催し、延べ462名が受講されました。

2. 学外との連携

① 平成28年度生涯学習推進懇話会

2017年3月10日（金）、多岐にわたる本部門の事業の成果や改善すべき点を把握するため、平成28年度生涯学習推進懇話会を開催しました。なお、1999年度開催の第1回大学開放推進懇話会からの通算では18回を数えます。

② 全国協議会

2016年9月26日（月）～27日（火）にかけて、第38回全国国立大学生涯学習系センター研究協議会において、意見交換を行いました。2016年度の当番大学は香川大学でした。

③ 北陸地区大学間連携

2016年12月19日（月）に金沢大学サテライトプラザ（金沢市）において、富山大、金沢大、北陸先端科学技術大学院大、福井大の各大学スタッフによる専門委員会が開催され、2016年度まちなかセミナーの反省・次年度の企画について意見交換が行われました。

3. 広報・出版活動

① チラシによる広告

公開講座、オープン・クラス、サテライト講座について、新聞へのチラシの折込みを実施しました。加えて、富山市、高岡市を中心にした地域で、各種学習施設や公民館等に配布依頼を行いました。

このほか、DMの形でパンフレットを郵送し、また各地でチラシ、ポスターの配布を行いました。その他の事業についても、事前に募集案内を作成し、県民カレッジや各地の公民館等に配布しました。

② 出版物

- ・公開講座、オープン・クラス、サテライト講座のチラシ及びポスターを作成しました。
- ・公開講座、オープン・クラスの募集要項を作成しました。
- ・「生涯学習部門年報」第18巻を刊行しました。

③ メールやWebを利用した広報活動

- ・メールマガジン

メールマガジンは、おおよそ600人に対し概ね月1回のペースで発信し、91号を配信するに至りました。

- ・Web

大学開放に関する情報発信として随時Webサイトを更新するとともに、フェイスブックを開設しています。

